令和4年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」

の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
久米　智宏 （国語主任）	校長；内田　洋一　　教頭；二宮　正太　　研修主任；大島　浩代 教務主任・3学年主任・数学主任；堀岡　暁美　　2学年主任；髙尾　みちよ 1学年主任；長楽　真裕美　　理科主任；川原　諒子　　生徒指導；竹内　正行

校長

内田　洋一

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職，小中教員による授業参観や報告，小中合同研修会等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

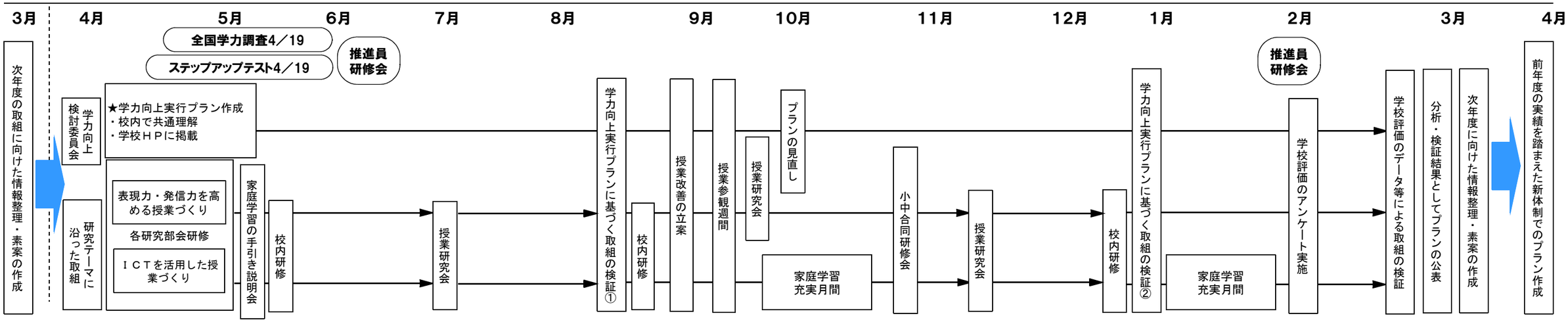
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着いて授業に取り組むことができる。提出物は，期限を守って出すことができる生徒がほとんどである。 ●家庭学習や，授業後の復習ができない生徒が多いため，授業中に理解できた内容が定着していない。	・自ら課題を設定したり，仲間と協働したりしながら，解決や探究に取り組むことができる。 ・自主学習ノートを利用して反復練習し，知識・技能を身につけることができる。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる文章表現を学び，日常生活の中で活用できる。	・休み時間や放課後等に「質問教室」を開催することで，生徒が気軽に質問することができる場を設ける。 ・定期的に図書の貸し出し状況を確認し，読書数の少ない生徒に声をかける。また，教室に学級文庫を設置し，読書環境を整える。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○班学習やペア学習などに対して積極的に参加して考えたり，話し合ったりすることができる。 ●記述式の問題で，考えをまとめて表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。	・記述式の問題に対して，伝えたいことや考えを整理してわかりやすく書くことができる。 ・タブレットを活用して，根拠となる資料を探したり，関連する情報を集めたりして，考えをまとめることができる。	・授業や定期テストで記述式の問題に慣れさせる。 ・生徒が自信を持って取り組めるように準備を充実し，経験を積ませる。 ・タブレットを活用して，調べたり自分の考えをまとめたりし，発表する機会を増やす。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○英語検定に対する向上心をもつ生徒が増えた。 ○学力を高めるために自ら課題を見つけて取り組む生徒が増えた。 ●テスト前における家庭学習の時間にばらつきが見られる。	・英語検定の受験率80%以上である。 ・教師側から与えられた課題をこなすだけでなく，自分で目標を決めてその達成のために取り組むことができる。 ・自分に合った学習計画や学習の仕方を工夫することができる。	・昼休みや放課後に，英検対策教室を設ける。 ・エラーズノートを活用することで，生徒が自ら復習できるように支援する。 ・生徒の実態にあわせて学習方法等の指導・助言をする。			

令和4年度　学力向上ロードマップ